

# ふるさと川上 史跡マップ



1 日吉神社



2 八王子社 (左側)



4 貴船社

3 若宮様 (右側)



5 元真寺・山王滝



6 長福寺「地蔵・虚空蔵」



10 北迫遺跡



12 藩政時代までの国境



13 萩原康申塚



25 本覚寺のモッコク



20 大明神社



21 西山分校跡



24 船頭山本覚寺



22 王蘇山安楽寺



23 石風呂



28 北向地蔵



29 片倉天満宮



31 山王社



35 御作興



34 真綿川ダム



〈平成11年〉



安楽寺前



〈昭和28年頃〉



はちおうじしゃ



わかみやさま



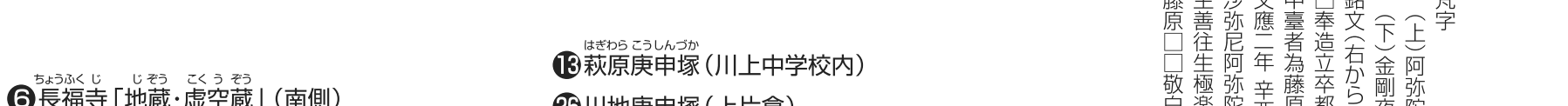
かわかみおおつじしゅつどせきとうぼ 7 川上大辻出土石塔婆

長福寺旧跡付近から発見されたと伝えられ虚空蔵板碑と呼ばれていた。板状の供養塔で、高さは約57cmで、銘文から文応2年(1261年)藤原国守と妻を供養し極楽往生を願って6千本の卒塔婆とともに建てられたことがわかる。鎌倉時代中期の板碑として全国的にも古い貴重な資料。(市指定有形文化財)



### 5 元真寺・山王滝(川上宮の後)

滝は本堂裏にあり、真締川に注ぐ支流の一つに流れ落ちる。周囲には多くの仏像が祀られ、滝垢離の行場として厳かな気配に満ちている。元真寺は、元永元真が不動明王や地藏菩薩を九州から迎え昭和5年に開いた真言宗の寺院。弘法大師蔵もあり、裏山には北迫八十八か所も祀られている。滝付近では、オオサンショウウオが捕獲されたという記録が残っており、清らかな溪流だったことが伺われる。



### 13 萩原庚申塚(川上中学校内)

### 26 川地庚申塚(上片倉)

### 27 青木庚申塚(上片倉)



ちょうけいつぼかたどき



さんばくさま

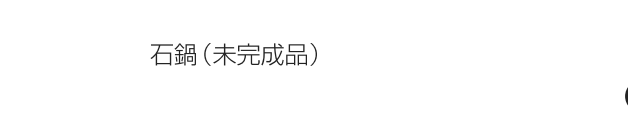


せんどうさんほんかくじ 24 船頭山本覚寺(上片倉)

25 本覚寺のモッコク

はじめ東岐波王子にあったが、寛永3年(1626年)この地に移ったという。開基は祐西。なお、山号の船頭山については、昔下片倉付近まで入江で、沖を通る船の船頭が目印にしていた山であったと伝えられる。

旧境内の庭園の一角にあるモッコクは、ツバキ科の常緑高木で、樹高は約11m、幹周囲は2.7m。枝張りは13m四方に及び大きな傘のような樹姿は美しい。市内では最大、県内でも有数のモッコクである。(市指定天然記念物)



石鍋(未完成品)

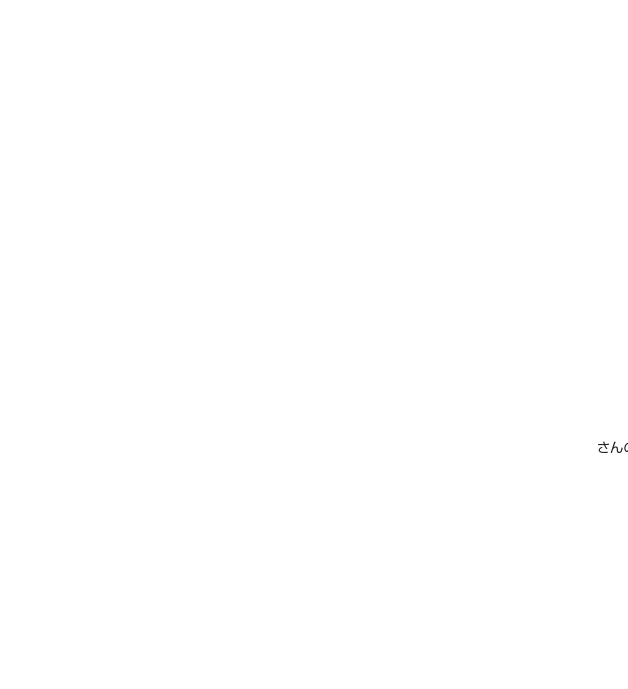
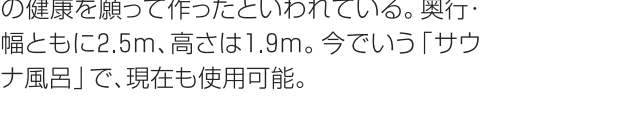
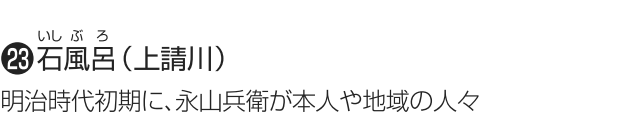


### 20 大明神社(上請川)

祭神は、木花之開耶姫、瓊瓊杵尊、罔象女神の三神で、享保18年(1733年)請川の住民により建立された。明治4年請川神社・大明神社と改称された。



んこうあと



せんどうさんほんかくじ 24 船頭山本覚寺(上片倉)

25 本覚寺のモッコク

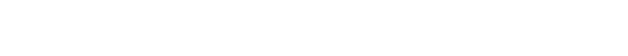
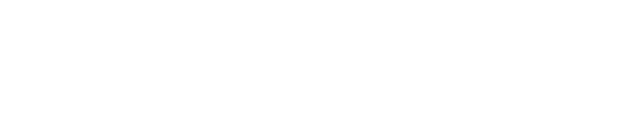
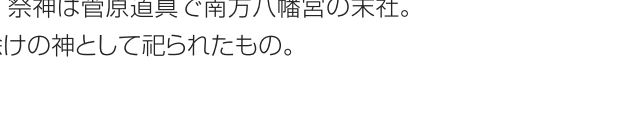
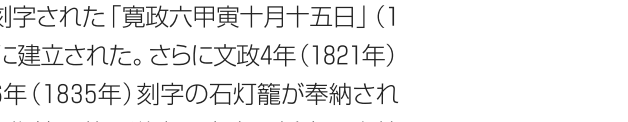
はじめ東岐波王子にあったが、寛永3年(1626年)この地に移ったという。開基は祐西。なお、山号の船頭山については、昔下片倉付近まで入江で、沖を通る船の船頭が目印にしていた山であったと伝えられる。

旧境内の庭園の一角にあるモッコクは、ツバキ科の常緑高木で、樹高は約11m、幹周囲は2.7m。枝張りは13m四方に及び大きな傘のような樹姿は美しい。市内では最大、県内でも有数のモッコクである。(市指定天然記念物)



### 28 北向地藏(上片倉)

北向地藏の建立は台座に刻字されているように天保11年(1840年)であるが、その由来は室町時代までさかのぼると言われている。北向地藏尊と呼ばれるようになったのは明治に入ってからである。毎月24日の例祭や1・4・8月の大祭には多くの参詣者で賑わっている。



せんどうしゃ 24 船頭山本覚寺(上片倉)

25 本覚寺のモッコク

はじめ東岐波王子にあったが、寛永3年(1626年)この地に移ったという。開基は祐西。なお、山号の船頭山については、昔下片倉付近まで入江で、沖を通る船の船頭が目印にしていた山であったと伝えられる。

旧境内の庭園の一角にあるモッコクは、ツバキ科の常緑高木で、樹高は約11m、幹周囲は2.7m。枝張りは13m四方に及び大きな傘のような樹姿は美しい。市内では最大、県内でも有数のモッコクである。(市指定天然記念物)



### 28 北向地藏(上片倉)

北向地藏の建立は台座に刻字されているように天保11年(1840年)であるが、その由来は室町時代までさかのぼると言われている。北向地藏尊と呼ばれるようになったのは明治に入ってからである。毎月24日の例祭や1・4・8月の大祭には多くの参詣者で賑わっている。

